



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)

2021/12/22 公開
◆終末預言シリーズ (前兆編) ◆

22 「携拳が起こる日を知る人は？」

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。前回の動画で「携拳は艱難時代の前にあるんだ」と説明しました。では、艱難時代の前のどのタイミングで起こるんでしょう？ エゼキエル戦争の前でしょうか？ エゼキエル戦争の後でしょうか？

どのタイミングで携拳が起こるのかについて、イエス・キリストご自身が語っておられる箇所があります。今日は、その箇所をご一緒に見ていきたいと思えます。ヨハネの福音書 14 章。少し背景を説明します。

14 章はイエス・キリストが逮捕・連行される数時間前の出来事です。

逮捕されて裁判を受けて、十字架に掛かるという一連の受難の数時間前に、弟子たちに向かってキリストが語られた言葉なんですね。そして、「間もなくわたしは捕らえられる。あなたがたはわたしを置き去りにして、散り散りばらばら逃げて行くのだ」ということまでも預言なさるんです。

それを聞いた時の弟子たちは、どんなに怖かったでしょう。また、どんなに不安になったでしょう。もう恐怖でドキドキしたに違いありません。なので、その時キリストが言われました。

14:1 あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。

これはすごい言葉ですね。というのは、イエスはご自分を神と対等として紹介しているからです。神を信じ、またわたしを信じなさいは、「全知全能の神を信頼するような信頼の仕方です。わたしを信じなさい。わたしを信頼しなさい」と言われているのです。イエスを信じるとはどういうことか？ 具体的には、イエスが言われた言葉を信じる。イエスが語られた約束を信じるということです。イエスは 3 節までに 2 つの約束をします。「その約束によって、心騒ぐ状態から解放されなさい。」

■ 1 つ目の約束

「天国には、あなたがたのための場所があるから安心しなさい。あなたがたはこの地上で迫害を受け、弾圧され、どこにも居場所がないような時が来るかもしれない。しかし、心を騒がせないように。安心しなさい。あなたがたの居場所は天国にちゃんとある。いや、天国にあなたがたの場所が準備されているのだ。」

なぜ自分の場所が天国にあると確信できるのか？ 「その準備をするために、わたしは天に帰るからだ」というのです。

2.わたしの父の家には住む所がたくさんあります。そうでなかったら、あなたがたのために場所を用意しに行く、と言ったでしょうか。

あなたがたのために場所を用意しに行く。この意味は、キリストは私たちの罪の身代わり・いけにえとなって、十字架に掛かって死んでくださいました。その後墓に葬られましたが、3 日目に死を突き破って復活しました。復活した後 40 日間、折に触れて弟子たちの前に姿を現し、自分が復活したことを彼らに確信させ、そして 40 日目に、弟子たちと一緒にオリーブ山に上り、その山頂から天に帰って行かれました。これを「天に昇る」と書いて昇天と言います。

なぜ弟子たちを置いて、ご自分だけ天に行かれたのか？ 弟子たちは置き去りにされた孤児のような状態にされたのでしょうか。いやいや。イエスが天に行った目的は、父の家である天国に弟子たちの場所を備えるためだ、というわけなんですね。

さて、新幹線が開通した時、必ずやるセレモニーがあります。テープカットですよ。偉い人たちが何人か並んで、ドロドロドロドン！開通！テープカットお願いします。パチパチパチ。やるんですね。ところで、繋ぐという行為は建設的行為だけど、切るという行為はある意味破壊的行為ですよ。刃物やハサミで完成しているテープを切り落とすというのは破壊行為だと思います。でも、その破壊行為の後に夢の超特急（ちょっと古いな）、最高技術の塊である新幹線開通。それに乗ることができる。

痛ましいことの後に素晴らしいものが待っている。
その場合、痛ましいことは素晴らしいことの始まりだと言えるんです。

イエス・キリストの十字架は、弟子たちにとってこれ以上ない痛ましいことです。だから心騒いだ。しかしキリストは、「心騒がすな。これは素晴らしいことの始まりなのだ。わたしが十字架に掛からなければ、たとえ天国に場所があっても、あなたがたはそこに入る資格がない。あなたがたに資格を与え、場所を備えるために、わたしは十字架に掛かり、墓に葬られ、3日目に復活し、そして天に戻るのだ。だから、心騒がせないようにしなさい。」これが1つ目の約束です。

■ 2つ目の約束

3.わたしが行って、あなたがたに場所を用意したら、また来て、あなたがたをわたしのもとの迎えます。わたしがいるところに、あなたがたもいるようにするためです。

わたしが行って。どこに行くんですか？ 父の家である天国。
あなたがたに場所を用意したら。どこに用意するんですか？ 父の家である天国。
また来て。どこから来るんですか？ 天から。
あなたがたをわたしのもとの迎えます。キリストがまた天から来て、キリストを信頼している者たちを迎える。これが携挙です。つまり、ヨハネの福音書 14章 3節は携挙のことを語っているんです。

そして、携挙がいつ起こるのかのタイミングについて、ここでハッキリ語ってるんですね。
あなたがたに場所を用意したら携挙がある。キリストが天国で信者たちのために場所を用意したら、また来て、あなたがたをわたしのもとの迎えます。天国での場所の準備完了が携挙のタイミングです。

ただし、天国でのキリストの準備状況を地上から見るとはできません。地上にいる人間は、天の世界でキリストがどのように仕事を進展させているのか、どの程度まで準備できているのか、見ることはできません。地上の誰も、準備完了の瞬間を知ることはできないんです。
なので、携挙の瞬間というのは父の家で準備ができた瞬間ですが、それは地上の誰も見ることはできないので、携挙の瞬間を知ることができる人は誰もいません。

まとめると こういうことです。携挙は艱難時代の前にあります。しかし、艱難時代のどのタイミングで起こるのかは、人は誰も知ることはできない。だが、いつでも起こり得ることである。

今日 家の準備が完了できたら今日お越しになる。今 準備完了したら今お越しになるのです。
5年後に準備完了するんですか？ 或いは10年後でしょうか。明後日でしょうか。誰にも分かりません。
しかし1つ言えることは、いつでも起こり得るということ。

● 艱難時代の前 ● いつでも起こり得る ● そのタイミングを知っている者は誰もいない。
この3つが、携挙のタイミングに関して言えることだと思います。

初代教会のクリスチャンたちは この約束を理解していました。特に使徒たちは正確に理解して、それを伝えていたんですね。彼らは自分たちが生きている間に、イエス・キリストが携挙しに来てくださると信じていました。そのように書いてある箇所がいくらかでも出て来ます。

彼らは互いに挨拶を交わす時、「シャローム」「ハロー」「グッバイ」「またね」じゃなくて「マラナタ」と言ったんですね。これはアラム語です。直訳は「主よ、来てください。」

1 度目のキリスト到来は、赤ちゃんのイエスが飼葉桶に寝かされたという記録が残っていますね。

クリスマスですね。その大事件について知る者はほとんどいませんでした。

2 度目は空中まで来られて携挙が起こるのですが、それはあまりにも一瞬のことなので、気付く人は誰もいないでしょう。

しかし、3 度目にこの地上にまで来られる時（地上再臨）…艱難時代を強制終了するためにオリーブ山に下り立たれる時は、全ての人がキリストを見るのです。

ぜひ携挙に与っていただきたいと思います。

それは私の願いである以前に、神があなたに望んでおられることなんですね。

どうぞ続けてこの番組を見ていただいて、聖書預言について なお理解を深めていただければ大変嬉しく思います。

よろしければチャンネル登録をお願いします。ではまた、このチャンネルでお目にかかりましょう。それでは皆さん、マラナタ！

☆使用した聖書は「聖書 新改訳 2017」です。